



東京都港区海岸一丁目2番20号  
汐留ビルディング3階  
株式会社LTTバイオフーマ

## News & Information

---

2009/12/21

〔株式につぼんに掲載されました〕

2009年12月15日発売の株式につぼん20101/1・15日新年合併号に当社記事が掲載されましたのでお知らせします。

当社の業績および事業の状況等が紹介されておりますのでご参照ください。

(ご参考) 株式につぼんWEBサイト

<http://www.kabu-nippon.jp/>

るカラ売り分については、当然買  
い戻しを入れてくる。さらに、株  
価が公募価格を上回る展開が見込  
まれる場合は、公募増資後に現物  
の買いを入れてくるため、株式価  
値の希薄化懸念を嘲笑うかのよう  
に、出来高を伴って株価は大幅上  
昇するケースも出てくるのだ。

意外に気づかれていないが、過  
剰流動性マネーにとって、公募増  
資後の成長戦略など二の次なので  
ある。公募増資発表に伴う株価下  
落と、公募増資後に高まる流動性  
に着目した特有の投資行動に過ぎ  
ない。世界的な株式市場の上昇に  
あつて、置いてきぼりを食らつて  
いる日本株だが、過剰流動性マネ  
ーの側から見れば、三大メガバン  
ク株の上昇余地と持たざるリスク  
は、着実に高まっている。

2 巡目の公募増資に入った三菱  
UFJFGは、直近では信用買い  
残1億1000万株に対して、信  
用売り残2500万株で、信用倍  
率は4・3倍。一方、年明け早々  
に公募増資を発表すると観測され  
る三井住友FGは、信用買い残1  
750万株に対して、信用売り残  
は136万株で、信用倍率は12・  
8倍。同じくみずほFGは、信用  
買い残は4億5000万株に対し

て、信用売り残は3000万株で、  
信用倍率は15・0倍となっている。  
09年6月と7月に実施した公募  
増資の公募価格を割り込んでいる  
三井住友FG、みずほFGの株価  
水準は、リバウンド妙味だけにな  
く、配当利回り(三井住友FG  
3・1%、みずほFG4・8%)  
から見ても、買いを誘うところで  
ある。

しかし、年明けには、三井住友  
FG、みずほFGだけでなく、電  
機や化学セクターの公募増資が観  
測され、年度末までに2兆円から  
3兆円規模の公募増資があつても  
おかしくない状況だけに、慎重な  
投資スタンスが求められることは  
言うまでもない。

し目買いが、基本スタンスとな  
う。  
過剰流動性マネーの投資行動パ  
ターンを踏まえると、三井住友F  
G、みずほFGに関しては、公募  
増資の発表、それに伴う株式価値  
の希薄化懸念をハヤして再びカラ  
売りが入ってきたところが、千載  
一遇の買いのタイミングとなりそ  
うである。

## LTTバイオファーマ

4566 東証マザーズ 単位1株

# 株 旬 情 報

### 経常黒字化果たし、今後のライセンス活動に注目集まる

LTTバイオファーマは、DDS  
(薬物送達システム) 製剤の開  
発ベンチャー。10月に発表した  
9月中間決算では、連結経常利  
益が1億6100万円の黒字(前年  
同期2億2300万円の赤字)と上  
場以来初の黒字化を達成した。  
創業事業で末梢血管病変治療薬  
「AS-013」のライセンスアウト  
により一時金収入を獲得したほ

か、筆頭株主である北京泰徳製  
薬からの受取配当金の増加など  
が利益を押し上げた。「AS-013」  
のライセンスアウトに続き、潰  
瘍性大腸炎・特発性間質性肺炎  
治療薬「PC-SOD」の臨床試験  
とライセンス活動に注力し、特  
に特発性間質性肺炎で、従来の  
静脈注射による投与のほか、新  
たに吸入による投与の研究開発

にも着手しており来年  
中にはフェーズⅡに進む  
見通し。特発性間質性  
肺炎は現在特効薬が見  
当たらない分野で、世  
界市場4000億円ともい  
われている。製薬メー  
カーの関心も高く、今後の  
進展が注目されている。

